

1 膵内分泌腫瘍について正しいのはどれか。

- a 多血性腫瘍である。
- b リンパ行性転移が多い。
- c MEN2型に合併することが多い。
- d 症候性で最も多いのはガストリノーマである。
- e ソマトスタチノーマでは、低カリウム血症を伴う。

2 母児感染のリスクを軽減するため、帝王切開が行われる病原体はどれか。2つ選べ。

- a HIV
- b 風疹ウイルス
- c B群レンサ球菌
- d パルボウイルスB19
- e 単純ヘルペスウイルス

3 フィブリノイド壊死を伴う糸球体腎炎を呈するのはどれか。2つ選べ。

- a 糖尿病性腎症
- b 結節性多発動脈炎
- c Wegener肉芽腫症
- d 顕微鏡的多発血管炎
- e 溶血性尿毒症症候群

4 高血圧性脳症の頭部MRI T2強調画像で、異常高信号域が出現しやすい部位はどこか。

- a 小 脳
- b 前頭葉
- c 側頭葉
- d 頭頂葉
- e 後頭葉

5 原発性骨髄線維症において、通常認められない所見はどれか。

- a 巨大脾腫
- b 高尿酸血症
- c 白赤芽球症
- d 血小板増多症
- e 正球性正色素性貧血

6 低血糖の原因とならないのはどれか。

- a ACTH単独欠損症
- b インスリノーマ
- c 褐色細胞腫
- d Addison病
- e 肝硬変

7 正しい組合せはどれか。2つ選べ。

- a 全身性エリテマトーデス〈SLE〉——— ヘリオトロープ疹
- b 全身性硬化症〈強皮症〉——— 日光過敏症
- c Behçet病 ——— 結節性紅斑
- d 混合性結合組織病〈MCTD〉——— 肺高血圧症
- e 側頭動脈炎——— 鞍 鼻

8 50歳の女性。急激な腹痛が生じ、2時間後に救急車で来院した。来院時、上腹部から右季肋部にかけての圧痛を認めた。

診断に有用でない検査はどれか。2つ選べ。

- a 単純エックス線撮影法
- b 腹部超音波検査
- c 消化管造影
- d コンピュータ断層撮影
- e 血管造影

9 三尖弁閉鎖症について正しいのはどれか。

- a 手術治療としてJatene手術が適応される。
- b 三尖弁閉鎖症は新生児期にチアノーゼが出現しない。
- c 経皮的バルーン心房裂開術を行うのは極めて稀である。
- d 三尖弁閉鎖症は動脈管を介して肺血流を維持する必要がある。
- e 心室中隔欠損症を合併しない場合、インドメタシン静注の適応となる。

10 糸球体病変を示す検尿所見はどれか。

- a ケトン体
- b 亜硝酸塩
- c 変形赤血球
- d β_2 -ミクログロブリン〈 β_2 -MG〉
- e N-アセチルグルコサミニダーゼ〈NAG〉

11 多嚢胞性卵巣症候群と関連の少ないのはどれか。

- a 肥 満
- b 子宮頸がん
- c 子宮体がん
- d 月経異常
- e 不 妊

12 病院など多数の者が利用する施設の管理者に受動喫煙防止策を義務付けている法律はどれか。

- a 地域保健法
- b 健康増進法
- c 母子保健法
- d 健康保険法
- e 環境基本法

13 上顎骨骨折で見られない症状はどれか。2つ選べ。

- a 鼻出血
- b 知覚障害
- c 開口障害
- d 咬合不全
- e 顔面神経麻痺

14 Dupuytren拘縮について誤っているのはどれか。

- a 女性に多い。
- b 白人に多い。
- c 両側性が多い。
- d 環指・小指に多い。
- e 糖尿病に合併する。

15 睡眠時無呼吸症候群でみられないのはどれか。3つ選べ。

- a 日中の眠気
- b 情動脱力発作
- c いびき
- d 入眠時の下肢のむずむず感
- e 睡眠麻痺

16 口唇に好発する疾患はどれか。

- a 血管神経性浮腫
- b 結節性紅斑
- c 貨幣状湿疹
- d 基底細胞癌
- e 脂腺母斑

17 アデノイド増殖症でみられないのはどれか。2つ選べ。

- a 鼻 閉
- b 難 聴
- c 開鼻声
- d いびき
- e 鼻出血

18 尿道カルUNKルについて、正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 出血を伴うことが多い。
- b 女性の尿道腫瘍で最も多い。
- c 尿道全摘除術の適応となる。
- d 放置すると悪性化することがある。
- e 外尿道口の前壁（12時方向）から発生することが多い。

19 節足動物と疾患の組合せで正しいのはどれか。2つ選べ。

- a カ————日本脳炎
- b シラミ————ライム病
- c ダ ニ————つつが虫病
- d ハ エ————Q 熱
- e ノ ミ————発疹チフス

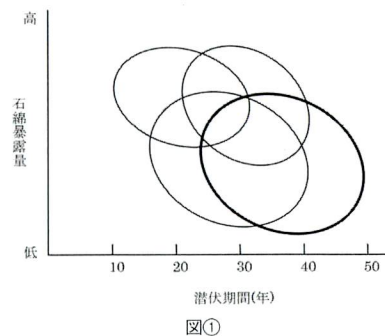
20 乳房腫大を主訴に来院した2歳の女児でまず行う検査はどれか。

- a 頭部単純CT
- b 頭部単純MRI
- c 乳房超音波検査
- d 腹部超音波検査
- e 手根骨エックス線単純撮影

- 21 石綿暴露量と石綿関連肺疾患の潜伏期間を図①に示す。

太線に囲まれた領域の疾患はどれか。

- a 石綿肺
- b 胸膜プラーク
- c 良性石綿胸水
- d 肺 癌
- e 悪性胸膜中皮腫



- 22 超音波検査で胎児診断できるのはどれか。

- a 臍帯ヘルニア
- b 肥厚性幽門狭窄症
- c 腸回転異常症
- d 先天性巨大結腸症
- e 鎖 肛

- 23 62歳の男性。尿路感染に対して、抗菌薬の内服を開始してから2週間後に 38℃台の発熱を認め、顔面の浮腫と、体幹四肢に融合傾向のある滲出性紅斑が出現した。

血液所見：白血球 13,200（異型リンパ球 3%）。血液生化学所見：AST 134 IU/ml、ALT 211 IU/ml、 γ -GTP 387 IU/ml (0-50)。血中抗HHV-6 IgG抗体は1,280倍（基準10未満）であった。

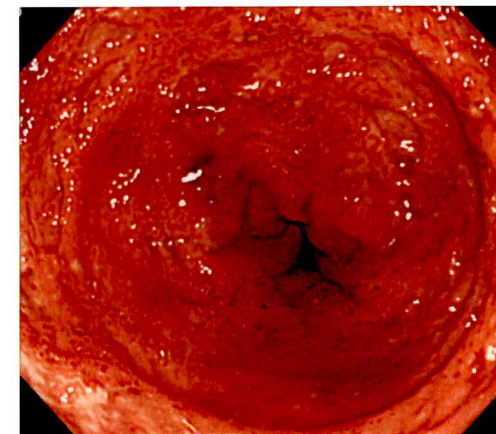
考えられる疾患はどれか。

- a 固定薬疹
- b 突発性発疹
- c 伝染性単核球症
- d 薬剤性過敏症候群
- e Kaposi水痘様発疹症

- 24 22歳の男性。3か月前から続く下痢と腹痛を主訴に来院した。大腸内視鏡写真（直腸）を示す。

この疾患について正しいのはどれか。

- a 肛門病変の合併
- b 潰瘍を伴う肉芽腫性炎症性病変
- c 瘻孔形成
- d 縦走潰瘍
- e 連続性病変



大腸内視鏡写真（直腸）

- 25 52歳の男性。易疲労感、嘔気と下痢が持続するため来院。口腔粘膜と皮膚に色素沈着が認められる。来院時、Na 126 mEq/l、K 5.5 mEq/l、Cl 91 mEq/lであり精査入院となった。

診断に有用な検査はどれか。

- a デキサメサゾン抑制試験
- b 迅速ACTH刺激試験
- c メトピロン試験
- d 水制限試験
- e LHRH試験

26 60歳の男性。以前に胃潰瘍の診断で内服治療を受けたことがある。最近は忙しくてストレスが多かったという。1週間ほど前より心窩部痛があり、時々黒色便を認め来院した。上部消化管内視鏡写真を示す。迅速ウレアーゼ試験は陽性であった。

誤っているのはどれか。

- a 胃潰瘍が見られる。
- b 3剤併用除菌療法の適応である。
- c プロトンポンプ阻害剤の投与を行う。
- d MALTリンパ腫が見られる。
- e ヘリコバクターピロリ感染が原因である。



上部消化管内視鏡写真①



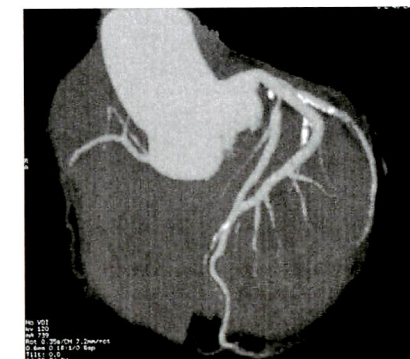
上部消化管内視鏡写真②

27 58歳の男性。労作性胸痛あり来院。1年前から階段や坂道でごく軽い前胸部痛を自覚。胸痛は1分持続し、安静で軽快した。安静時胸痛なし。喫煙歴は10本/日を20年間。身長 171 cm、体重 75 kg。脈拍 70/分、整。血圧 130/70 mmHg。血液所見：赤血球 482 万、Hb 15.0 g/dl、白血球 5,600、血小板 22 万。血清生化学所見：総蛋白 7.3 g/dl、アルブミン 4.5 g/dl、AST 25 IU/l、ALT 28 IU/l、LDH 177 IU/l (基準 176～353)、CK 141 IU/l、トロポニンT陰性。冠動脈造影CT、運動負荷 99mTc-tetrofosmin心筋血流シンチグラフィ検査所見を示す。

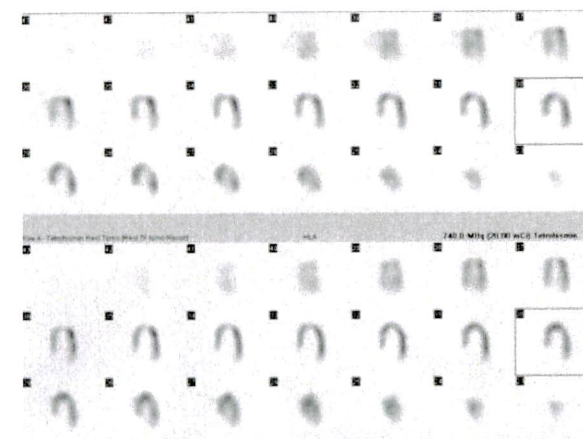
上段：運動負荷時、下段：安静時

虚血が疑われる部位はどれか。2つ選べ。

- a 下 壁
- b 前壁中隔
- c 後 壁
- d 心尖部
- e 側 壁



冠動脈造影CT



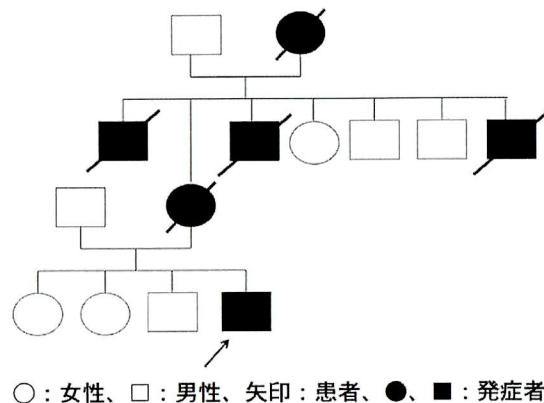
運動負荷99mTc-tetrofosmin心筋血流シンチグラフィ検査所見

上段：運動負荷時、下段：安静時

28 42歳の女性。4年前から歩行時のふらつきが徐々に進行し、転倒することがあるため受診した。神経学的には意識は清明、注視方向性眼振とびくり眼を認め、四肢の深部反射は亢進し、Babinski反射を認める。軽度のジストニアを認め、失調性歩行を呈している。

血液一般検査では明らかな異常所見は認めない。家系図を示す。母親の発症年齢は68歳である。診断はどれか。

- a SCA3
- b SCA6
- c MELAS
- d 多系統萎縮症
- e Huntington舞蹈病

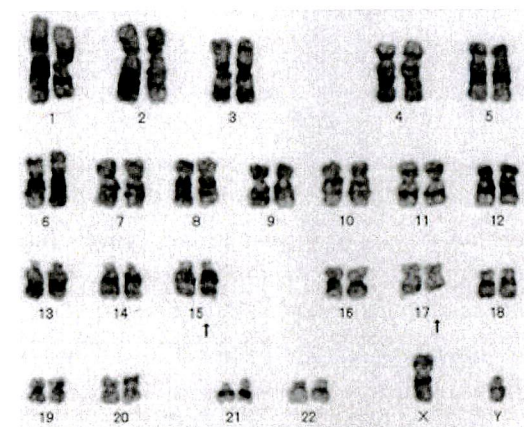


家系図

29 43歳の女性。口腔粘膜の出血と紫斑を主訴に来院した。白血球 1,600、赤血球 236万、Hb 8.5 g/dl、血小板 1.5万、プロトロンビン時間 (PT) 18 秒 (基準 9-13)、活性化部分トロンボプラスチン時間 (APTT) 75 秒 (基準 25-45)、フィブリノゲン 95 mg/dl (基準 150-400)、FDP 160 μ g/ml (基準 10 以下)。骨髄検査ではアズール顆粒の豊富な大型前骨髄球が増加していた。同時に行った骨髄染色体検査の核型 (↑が異常染色体) を示す。

正しいのはどれか。2つ選べ。

- a AML-ETO融合遺伝子が形成されている。
- b BCR-ABL融合遺伝子が形成されている。
- c PML-RARA融合遺伝子が形成されている。
- d オールトランスレチノイン酸 (ATRA) が有効である。
- e チロシンキナーゼ阻害薬 (イマチニブ) が有効である。



骨髄染色体検査の核型

30 68歳の男性。主訴は呼吸困難。7年前から慢性肺気腫を指摘されていたが、治療は受けていなかった。3日前から咽頭痛、黄色調喀痰および鼻汁、全身倦怠感が出現するようになった。本日の就寝時から息苦しさが増え、救急車にて受診した。来院時、意識は清明。身長 168cm、体重 58kg。体温 37.8℃。呼吸数 24/分。脈拍 106/分、整。血圧 170/98 mmHg。口唇にチアノーゼを認める。頸静脈の怒張を認める。心音に異常を認めない。呼吸音は両側全肺野で減弱している。腹部は平坦・軟で、右肋骨弓下に肝を2横指触知する。脾は触知せず。腹部に圧痛や抵抗はない。両下肢の浮腫を軽度認める。動脈血液ガス所見は空気吸入下で、pH 7.35、 PaCO_2 54.6 Torr、 PaO_2 54.0 Torr、 HCO_3^- 29.8 mmol/l、BE 3.1 mmol/l。酸素を 0.5 l/分で投与を開始した。

次に行う治療として誤っているのはどれか。

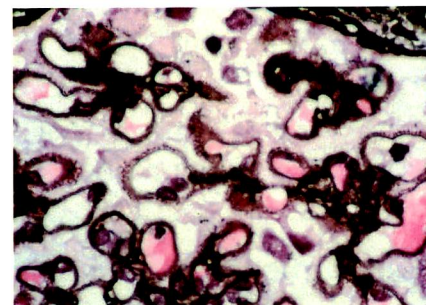
- a 抗菌薬の点滴静脈内注射
- b ループ利尿剤の静脈内注射
- c 副腎皮質ステロイドの経口投与
- d キサンチン誘導体の点滴静脈内注射
- e 非侵襲的持続陽圧換気 (NPPV)

31 60歳の男性。今年の健康診断で下腿浮腫を指摘されて来院した。5年前より毎年蛋白尿がある。脈拍 80/分、整。血圧 140/90 mmHg、眼瞼結膜貧血なし。胸部聴診上は異常なし。両下腿に浮腫を認める。

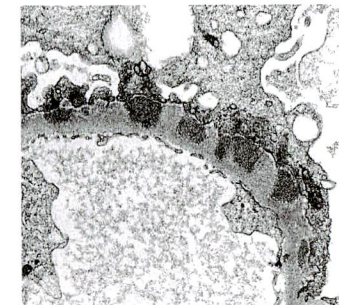
尿検査所見：蛋白 4+、蛋白尿 4g/日、糖 (-)、潜血 (-)。血液生化学所見：アルブミン 2.5 g/dl、尿素窒素 20 mg/dl、クレアチニン 0.9 mg/dl、CH50 35 単位 (基準30 ~ 40)。腎生検PAM染色標本と電子顕微鏡標本を示す。

正しいのはどれか。

- a 小児に多い。
- b 悪性腫瘍を合併する。
- c 溶連菌感染が見られる。
- d 扁桃腺摘出術が有効である。
- e メサンギウム領域にIgA免疫グロブリンが沈着する。



腎生検PAM染色標本



電子顕微鏡標本

- 32 28歳の男性。2週間前からの発熱と両下肢の皮疹を主訴に来院した。中学生の頃から口腔内に小さな白色の疼痛性潰瘍が出現している。陰嚢には境界明瞭な潰瘍を認める。白血球 10,200、CRP 6.8 mg/dl。両下肢の写真を示す。

この疾患にみられないのはどれか。

- a HLA-B27陽性
- b HLA-A26陽性
- c 回盲部潰瘍
- d 精巣上体炎
- e 血栓性静脈炎



両下肢の写真

- 33 17歳の女子。全身倦怠感を主訴に来院した。身長 165 cm、体重 52 kg、体温 36.8℃、脈拍 74/分、整。血圧 110/70 mmHg。眼球結膜に黄染を認めない。腹部は平坦で、軟で、右肋骨弓下に肝を4 cm触知する。脾は触知しない。血液検査：赤血球380万、Hb 11.2 g/dl、白血球 6,000、血小板 22 万。血清生化学所見：AST 120 IU/l、ALT 265 IU/l、LDH 420 IU/l、Cu 38 μg/dl（基準68～128）、セロプラスミン 4.8 mg/dl（基準21～37）。免疫学的所見：CRP 0.1 mg/dl、HBs抗原陰性、HCV抗体陰性。

治療薬はどれか。

- a ペニシラミン
- b シクロスポリン
- c プレドニゾロン
- d インターフェロン
- e ヒト免疫グロブリン

- 34 81歳の女性。弁膜症の診断で通院中であった。経過中に不整脈と肺疾患の指摘はない。夜間に起座呼吸となり救急搬送された。意識は清明。身長 150 cm、体重 40 kg。体温 37.0℃。呼吸数 24/分。脈拍 120/分、不整。血圧 140/90 mmHg。SpO₂ 88%。胸部聴診では、全肺野で湿性ラ音と、第2肋間胸骨右縁で駆出性収縮期雑音を聴取した。胸部エックス線写真では著大な肺うっ血像を認め、心電図では心房細動が認められた。心臓超音波検査を示す（図①および②）。

直ちに行うべき処置はどれか。

- a 安静臥位
- b 酸素吸入
- c 強心剤の投与
- d 電気的除細動
- e 利尿薬の静脈内投与



図① 傍胸骨長軸像 <拡張末期> <収縮末期>

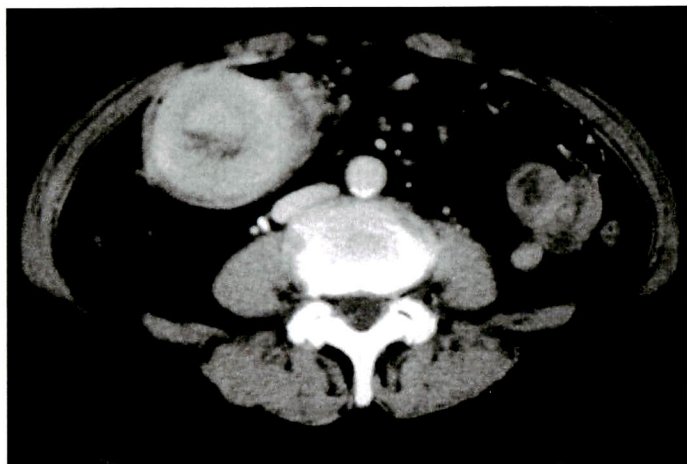


図② 傍胸骨短軸像

35 60歳の女性。生来健康であった。1か月前から上腹部痛があり、2日前から嘔吐が出現し来院した。常用薬や輸血歴はない。体温 36.9℃、脈拍 60/min、血圧 114/58 mmHg。右上腹部に軽度の圧痛と膨満を認めたが、反跳痛や筋性防御は認めない。検査所見：赤血球 346万、Hb 8.6 g/dl、白血球 12,000、血清総ビリルビン 0.2 mg/dl、AST 12 IU/L、ALT 10 IU/L、ALP 180 IU/L、LDH 150 IU/L、CPK 30 IU/L、CRP 0.4 mg/dl、CEA 0.3 ng/ml（基準 5以下）、CA19-9 6 U/ml（基準 37以下）。腹部造影CTを示す。

考えられる疾患はどれか。

- a 大腸癌
- b 腸重積
- c 虚血性腸炎
- d 腸回転異常
- e 上腸間膜動脈血栓症



腹部造影CT

36 24歳の男性。約1週間前から持続する38～39℃の発熱を主訴に来院した。両側頸部に米粒大から示指頭大のリンパ節を数個触知する。右肋骨弓下に肝を2cm、左肋骨弓下に脾を2cm触知する。

血液所見：赤血球 499 万、Hb 13.3 g/dl、Ht 43 %、白血球 13,800（桿状核好中球 3 %、分葉核好中球 20 %、単球 3 %、リンパ球 52 %、異型リンパ球 22 %）、血小板 18 万。生化学所見：総ビリルビン 0.8 mg/dl、AST 138 IU/l、ALT 166 IU/l、LDH 485 IU/l（基準 176～353）。CRP 3.3 mg/dl。抗VCA-IgG抗体 陽性、抗VCA-IgM抗体 陰性、抗EBNA抗体 陽性。抗サイトメガロウイルスIgM抗体 陽性、抗サイトメガロウイルスIgG抗体陰性。抗HCV抗体 陰性。

抗HIV抗体 陰性、HIV-RNA定量 50コピー /ml 以下（基準 50コピー /ml 以下）。

考えられるのはどれか。

- a 急性C型肝炎
- b EBウイルス初感染
- c 急性リンパ性白血病
- d 急性レトロウイルス症候群
- e サイトメガロウイルス初感染

37 26歳の男性。自家用車を運転中に衝突事故を起こし、救急車で搬送された。ハンドルで腹部を打ったという。腹部は、聴診・触診上、特に異常を認めない。腹部は平坦で右季肋部から心窩部に圧痛と打撲による皮下出血とみられる紫斑を認める。顔面蒼白、眼瞼結膜に軽度の貧血を認めるが眼球結膜に黄染は認めない。視・聴診で異常なく、筋性防御はみられない。呼吸 18/分、整。血圧 106/80 mmHg、血液所見：Hb 10.6 g/dl、白血球 9,800。

まず行うべき検査はどれか。2つ選べ。

- a 腹部超音波検査
- b 腹部造影エックス線CT
- c 静脈性（腎盂）造影
- d 腹腔動脈造影
- e 上部消化管内視鏡検査

38 11か月の乳児。嘔吐、下痢を主訴に来院した。

現病歴：2日前の夕方から嘔吐が出現した。昨日、近医受診し制吐剤処方されて帰宅したが、飲めなかった。今日になって嘔吐は軽快したが、朝から発熱が出現し、10回以上の下痢が認めている。夕方になり活気不良となったため受診した。今朝から排尿を認めていない。

現 症：意識は清明だがぐったりしている。身長 70 cm、体重 8.4 kg（1週間前の1歳児健康診査では 9.4 kg）。体温 37.3℃。呼吸数 21 /分、脈拍 144 /分、血圧 98/48 mmHg、毛細血管再補充時間1秒であった。呼びかけで反応するが、すぐに眠ってしまう。皮膚と口唇は乾燥し、皮膚ツルゴールは低下している。四肢は温かい。眼瞼結膜はやや貧血様で、眼球も落ち込んでいる。心音、呼吸音は正常。腹部は軟で、グル音の亢進を聴取する。肝・脾を触知しない。

便の写真を示す。

病原体として考えられるのはどれか。

- a ノロウイルス
- b ロタウイルス
- c エコーウイルス
- d ライノウイルス
- e コクサッキーウイルス



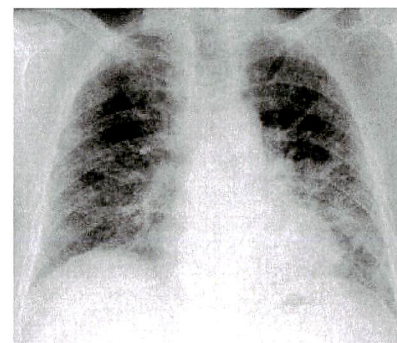
便の写真

39 58歳の男性。咳嗽と労作時呼吸困難を主訴に来院した。5年前から健康診断で胸部エックス線異常陰影を指摘されていたが自覚症状がないため放置していた。1年前から咳嗽を自覚。3か月前から階段昇降時の呼吸困難を自覚するようになったため受診した。喀痰、発熱はない。喫煙歴：20本/日、40年間。体温 36.2℃。呼吸数 16/分。脈拍 72/分、整。血圧 130/78 mmHg。空気吸入下SpO₂ 94%。両背部下肺野でfine cracklesを聴取。ばち指を認める。血液所見：赤血球 420万、白血球 6,400（桿状核好中球 4%、分葉核好中球 56%、好酸球 2%、リンパ球 38%）。CRP 0.2 mg/dl。KL-6 720 U/L（基準 500以下）。

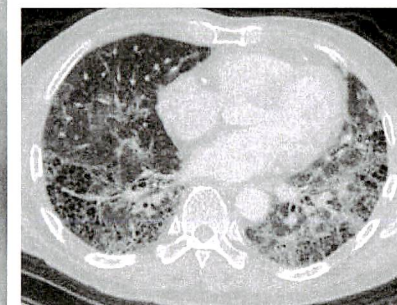
胸部エックス線写真と胸部単純CTを示す。

呼吸機能検査所見として正しいのはどれか。2つ選べ。

- | | |
|-------------------------|------|
| a %VC | 110% |
| b %FEV ₁ | 54% |
| c %DLco | 43% |
| d RV/TLC | 62% |
| e FEV ₁ /FVC | 31% |



胸部エックス線写真



胸部単純CT

40 36歳の男性。10日前に右胸痛が出現し、近医を受診。带状疱疹と診断され治療を開始された。2日後より39℃の発熱と咳嗽、呼吸困難が出現し同医を再診。胸部エックス線写真で陰影を指摘され、抗菌薬の投与をうけた。しかし、症状が増悪するため呼吸器内科を紹介され受診した。

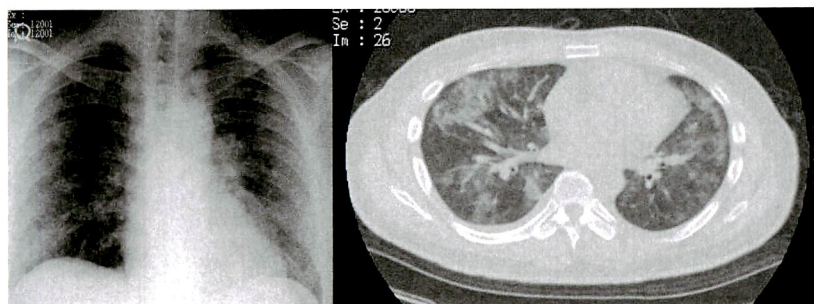
受診時WBC 10,100 (好中球 89%、リンパ球 7%)、CRP 17 mg/dlであった。

受診時の胸部エックス線写真と胸部CT。

至急で実施した喀痰のグロコット染色を示す。

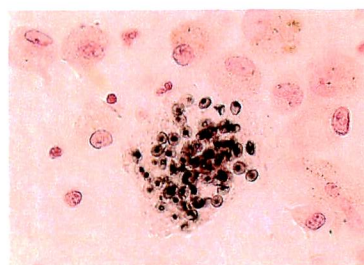
正しいのはどれか。

- a β -D-グルカン は正常である。
- b 喀痰細胞診上はclass Vと判定される。
- c 喀痰のPCR法による検査で同定できる。
- d マクロライド系抗菌薬が有効である。
- e 副腎皮質ステロイドの併用は禁忌である。



胸部エックス線写真

胸部CT



喀痰のグロコット染色

41 15歳の女子。傾眠状態で搬入された。10歳時から1型糖尿病でインスリン自己注射を行っている。5日前から発熱、食思不振および下痢のためインスリン注射を中止していた。意識レベルはJCSII-20。身長 150 cm、体重 50 kg。体温 36.9℃。脈拍 88 /分、整。血圧 98/62 mmHg。咽頭に発赤を認めるが、胸・腹部所見と神経学的所見とともに異常を認めない。血糖 562 mg/dl。尿糖 4+、尿ケトン体 3+。

まず投与するのはどれか。

- a 抗菌薬
- b ドパミン
- c 生理食塩液
- d 5%ブドウ糖液
- e 重炭酸ナトリウム

42 68歳の男性。2日前から左耳の疼痛を自覚していた。今朝うがいをするとき水がこぼれるのを自覚し、左顔面の麻痺を認めたため来院した。また、左耳の聞こえにくさも認める。血液所見：白血球 8,600、血小板 12万。免疫学所見：CRP 0.5 mg/dl。左耳の写真を示す。

治療として最も適切な薬物はどれか。

- a シスプラチン
- b アシクロビル
- c オセルタミビル
- d アンホテリシンB
- e ストレプトマイシン



左耳の写真

43 28歳の初産婦。妊娠9週で1絨毛膜2羊膜双胎と診断された。妊娠25週で羊水量の差を指摘され、妊娠26週、急速な腹囲の増大と腹部の筋満感を自覚した。

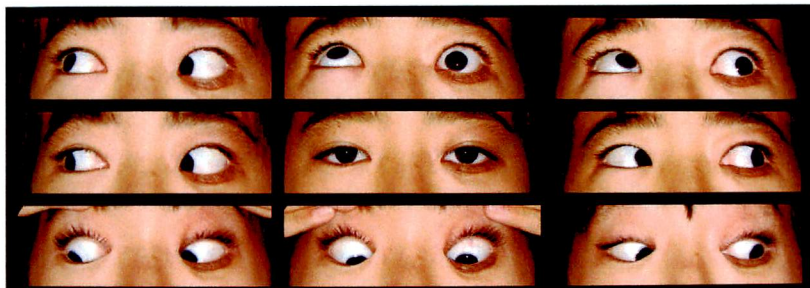
適切な対応はどれか。

- a MRI検査
- b 羊水除去
- c 染色体検査
- d 塩酸リトドリンの点滴
- e 75g経口ブドウ糖負荷試験 (OGTT)

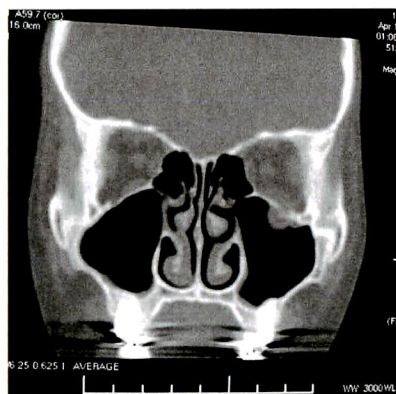
44 14歳の男子。サッカーの試合中、相手の頭部が左眼部にぶつかって受傷した。診察時の眼球運動写真とCTを示す。

適切でないのはどれか。2つ選べ。

- a 上転障害がある。
- b 知覚障害は認めない。
- c 下直筋が腫大している。
- d 眼窩下壁の骨折がある。
- e 上顎洞内の血液貯留がある。



眼球運動写真



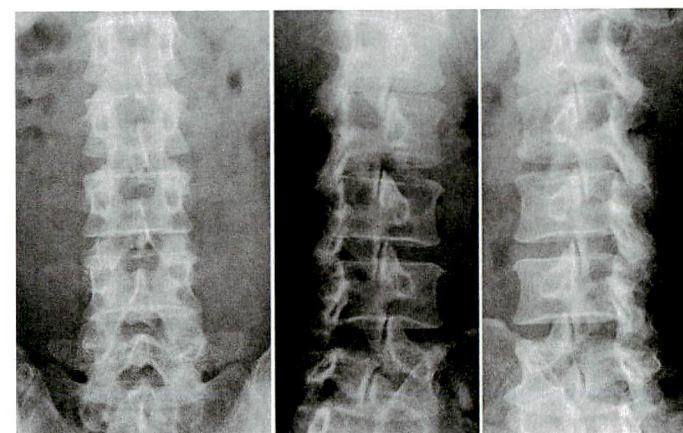
CT画像

45 15歳の男子。腰痛を主訴に来院した。2日前に野球の練習中に腰痛が出現した。3年前から度々、野球の練習をした後、腰痛が出現していたが、練習を休むと軽快していた。安静時痛や歩行時痛は認めない。

腰椎単純エックス線写真を示す。

診断はどれか。

- a 二分脊椎
- b 腰椎分離症
- c 強直性脊椎炎
- d 脊椎カリエス
- e 腰椎椎間板ヘルニア



腰椎単純エックス線写真

46 28歳の女性。20歳頃から摂食障害が出現し、その頃から抑うつ状態となり、薬物大量服薬による自殺企図を繰り返していた。連絡が取れないということで様子を見に行ったところ、アパート自室のトイレの中に豆炭30個がたかれており、反応がないために救急車要請となった。病院搬送までに約1時間を要した。来院時現症：意識はJCS 300、呼吸 18/分、脈拍 106/分、整。血圧 106/66、酸素 10 l/分吸入下でSpO₂ 97%であった。鼻腔内に煤を認め、皮膚は鮮紅色であった。瞳孔は左右同大3mm、対光反応迅速。心電図、胸部エックス線には異常なし。検査所見では動脈血液ガス(酸素 10 l/分) PH 7.40、PaCO₂ 36.7 torr、PaO₂ 194.7 torr、SaO₂ 98.3 %、CO-Hb 29.5 %、血液・生化学検査では異常なし。頭部MRIで両側淡蒼球に異常信号を認めた。

この患者について正しいのはどれか。2つ選べ。

- a CO-Hb濃度から軽症である。
- b 高気圧酸素治療を直ちに行う。
- c P50 (50%酸素飽和度)は低値である。
- d SaO₂ 98.3%からCO中毒は否定される。
- e 嫌氣的解糖が予測されアルカリ製剤を投与する。

47 50歳の男性。約1か月前にスノーボードで転倒し、後頭部を打撲したが様子をみていた。数日前より頭痛が続くため来院した。神経学的には、意識は清明で脳神経に異常を認めない。左上肢に軽度の運動麻痺を認める。頭部単純CTを示す。

この疾患について正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 男性に多い。
- b 高齢者には少ない。
- c 中硬膜動脈の損傷による。
- d 脳ヘルニアを起こすことがある。
- e 意識清明期 (lucid interval) がみられる。



頭部単純CT



頭部単純CT

48 71歳の女性。毎年夏場に悪化し、冬場に軽快する足の皮疹を主訴に来院した。趾間部の写真を示す。

適切でない検査はどれか。2つ選べ。

- a 培養検査
- b Tzanck試験
- c Wood灯検査
- d 苛性カリ直接鏡検法
- e プリックテスト



趾間部の写真

49 日齢21日の新生児。在胎38週5日、2,900gで出生。生下時よりチアノーゼを認め、心エコー検査を施行。肺動脈は閉鎖していたが、動脈管開存症を認めた。心室中隔欠損を認め、三尖弁は閉鎖していた。受診時の動脈酸素飽和度は90%であった。

治療方針について正しいのはどれか。

- a Blalock-Taussig短絡手術の適応である。
- b Norwood手術の適応である。
- c 三尖弁置換術の適応である。
- d 肺動脈絞扼術の適応である。
- e Rastelli手術の適応である。

50 27歳の女性。生来健康。動悸、体重減少を主訴に来院した。体温 36.8℃、脈拍 130/分、整。血圧 120/60 mmHg、頸部にびまん性で硬い甲状腺腫を触れ、圧痛や自発痛は認めない。血液所見：TSH 0.01 μ U/m未満(基準0.2～4.0)、fT₄ 2.6 ng/dl(基準0.8～2.2)、CRP陰性。TSH受容体抗体陰性。甲状腺ペルオキシターゼ抗体陽性、抗サイログロブリン抗体陽性。甲状腺¹²³I摂取率(24時間値)4.0%(基準10～40)。

治療薬として適切なのはどれか。

- a プロピルチオウラシル
- b プロプラノロール
- c サイロキシン
- d チアマゾール
- e 無機ヨード

51 35歳の2経妊2経産婦。

現病歴：第1子は分娩停止で帝王切開、第2子は反復帝王切開であった。妊娠30週で当院へ紹介初診した。超音波検査で児の成長は週数相当である。33週に行ったMRI画像を示す。

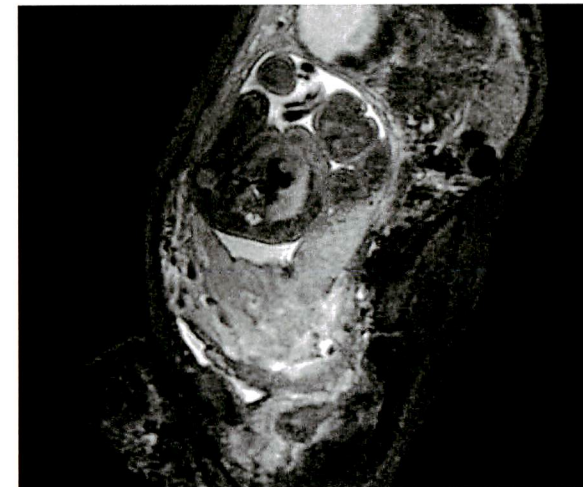
既往歴・生活歴・家族歴：特記すべきことはない。薬物アレルギー歴もない。

現 症：身長 154 cm、体重 62 kg、体温 37.0℃、脈拍 71/分、整。血圧 128/79 mmHg。

検査所見：尿所見：蛋白(±)、糖(-)、血液所見：血液型：B型Rh+、間接クームス(-)、Hb 11.3 g/dl、Ht 38%、白血球 11,000/ μ l、血小板 23万/ μ l。

管理方針で正しいのはどれか。

- a 自己血貯血が推奨される。
- b 血栓予防のため術前からヘパリン製剤を投与する。
- c 児が十分に成熟した39週以降の予定帝王切開とする。
- d インフォームド・コンセントを行えば経膈分娩も可能である。
- e 超音波断層法ではカラードプラーを用いても評価が困難であり、通常行わない。



MRI画像

52 25歳の女性。派遣社員として働いていたが、契約が終了し仕事のない期間があった。その頃から部屋にひきこもり、食事は母親に促されて食べる状態となった。心配した両親が病院を受診させようとしたが拒否した。やがて一人で笑ったり、独り言を言って怒るようになった。隣家の人が自分の悪口を言っているとその人に文句を言いに出かけようとするため、家族が止めると興奮する。このため両親に伴われて病院に来た。

この疾患で正しいのはどれか。

- a 発症初期の積極的な治療の介入が重要である。
- b 有病率は人口10万当たり約10である。
- c 陰性症状に対する薬物効果は高い。
- d 大脳に炎症性の変化が認められる。
- e 病気についての心理教育は無効である。

53 45歳の男性。10年前より高血圧があり、降圧治療中であった。突然激しい背部痛が出現し、持続するため救急車にて救命センターを受診した。来院時、血圧 190/105 mmHg、心拍数 112 /分、整。意識は清明であった。胸部造影CT検査を示す。

この疾患の合併症として考えにくいのはどれか。

- a 下肢虚血
- b 腸管虚血
- c 急性腎不全
- d 大動脈破裂
- e 大動脈弁閉鎖不全

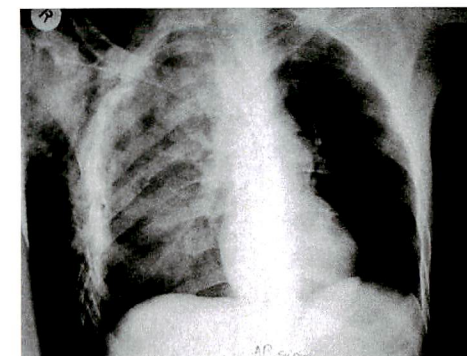


胸部造影CT検査

54 17歳の男子。バイクの自損事故で胸部を強く打撲し搬入された。現場では意識は清明、胸部の疼痛を訴える。搬入時、気道は開通、呼吸 30/分、右胸部で吸気時に胸郭の陥没を認め、SpO₂ 86%。脈拍 120/分、血圧 170/10 mmHg。胸部単純エックス線写真を示す。

この症例で当てはまる病態はどれか。2つ選べ。

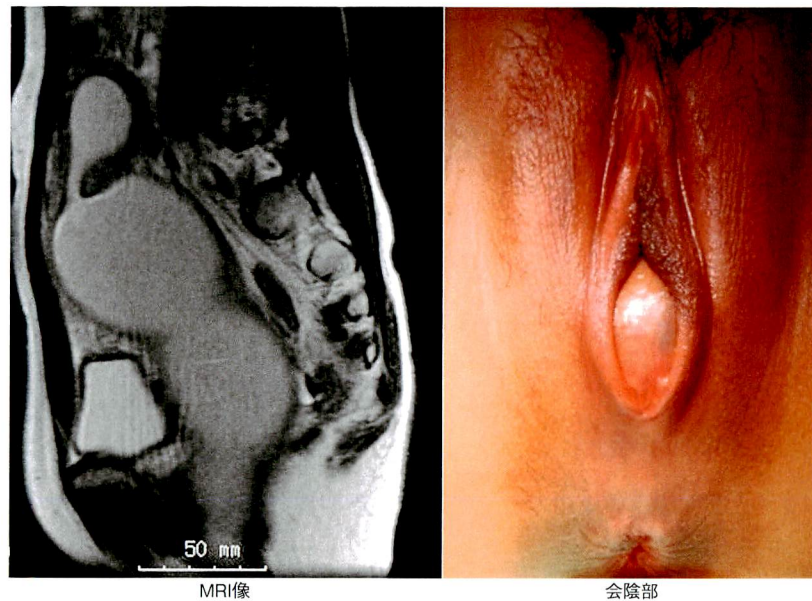
- a II型呼吸不全
- b 静脈還流障害
- c 胸腔内圧の上昇
- d 一回換気量の減少
- e 末梢血管抵抗の減少



胸部単純エックス線写真

55 12歳の女兒。腹痛を主訴に来院した。この患者のMRI像と会陰部の写真を示す。最初に行う処置として適切なものはどれか。

- a 浣腸
- b 抗菌薬投与
- c 処女膜切開
- d 子宮頸部円錐切除術
- e 腹腔鏡下卵巣腫瘍摘出術



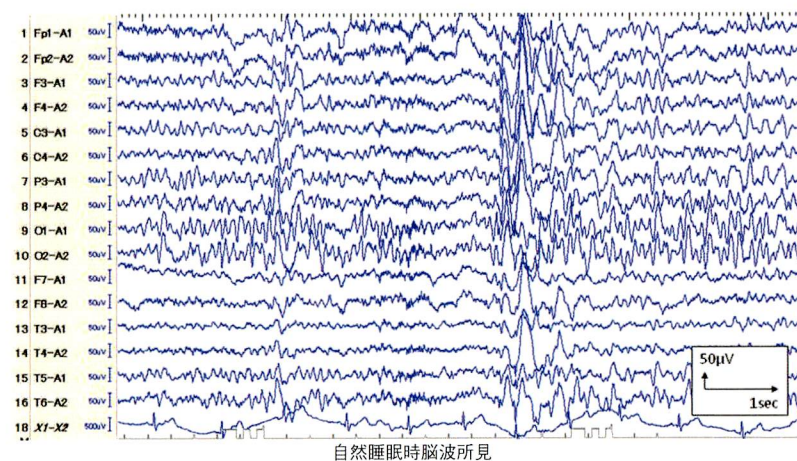
MRI像

会陰部

56 10歳2か月の男児。突然の意識消失を主訴に受診した。発熱を伴わず、現在までに3回の既往がある。突然意識を失い、右上下肢の間代性けいれんが数十秒続き、その後徐々に全身に広がる発作様式であった。顔色不良を伴うことが多い。妊娠分娩歴、家族歴は問題なく、現在までの知的発達は良好であった。自然睡眠時脳波所見を示す。

この患者の初期治療として正しいのはどれか。

- a ケトン食療法
- b ACTH筋肉内投与
- c カルバマゼピン内服
- d ビタミンB₆大量療法
- e アセトアミノフェン内服



自然睡眠時脳波所見

57 44歳の女性。人前で名前を書くときに手が震え、字が書けなくなったと外来を受診した。表情は硬く緊張していた。人前で話すのは苦手というが、主婦として家庭では問題なく生活しているという。食欲、睡眠に変化はない。両手を挙上させると細かく手が震える。その他両側上下肢で軽度深部腱反射の亢進が認められた他、神経学的異常を認めなかった。身長 162 cm、体重 50 kg、血圧 124/72 mmHg。一般血液検査、甲状腺ホルモンは正常範囲であった。

はじめに試みる薬物療法はどれか。

- a 抗不安薬
- b 抗うつ薬
- c β 遮断薬
- d 抗コリン薬
- e エストロゲン

58 15歳の男子。幼児期より日光にあたりと露光部に紅斑、水疱を形成するような強い皮膚炎を生じていた。次第に皮膚は乾燥粗造となり、特に顔面の小色素斑の多発と、ここ数年小結節、黒色結節、潰瘍が多発するようになった。

正しいのはどれか。

- a 伴性劣性遺伝性疾患である。
- b 体幹にはカフェオレ斑が多発する。
- c 三叉神経領域に単純性血管腫がみられる。
- d DNA修復機構の障害が疾患の本体である。
- e メラニン産生能が先天的に欠如している。

59 28歳の男性。肛門周囲からの膿排出および疼痛を主訴に来院した。排便時、出血および発熱はない。3か月前に肛門周囲膿瘍で切開、排膿されている。

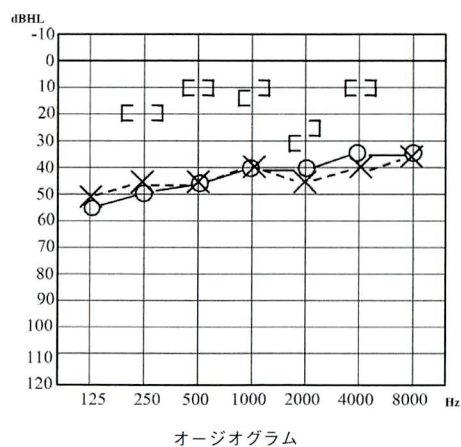
正しいのはどれか。

- a 見張りいぼを伴う。
- b 皮膚からの感染に起因する。
- c 乳幼児では根治手術が必要である。
- d 3時、7時、11時の位置に好発する。
- e Crohn病に伴うものは難治性である。

60 42歳の女性。30歳過ぎに難聴を自覚し、徐々に進行して生活に不便を感じるようになったため受診した。30歳前後に2子を出産している。鼻腔、咽喉頭、鼓膜に異常を認めない。オーディオグラムを示す。

この患者への治療方針として正しいのはどれか。2つ選べ。

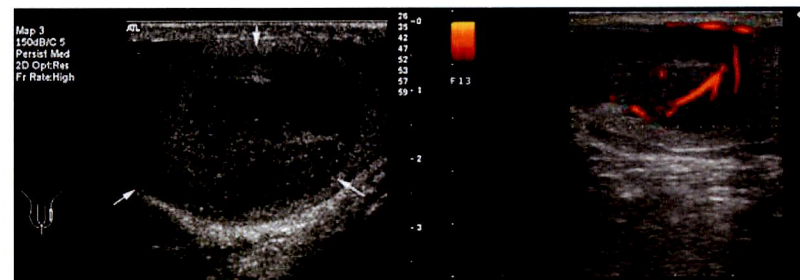
- a 補聴器装用
- b 鼓室形成術
- c アブミ骨手術
- d 鼓膜チューブ留置術
- e ステロイドの内服治療



61 20歳の男性。1年前から左陰囊の腫大を認めていたが放置していた。左陰囊が手拳大となったため外来受診。受診時の左精巣超音波検査を示す。

次に行う検査として適切なのはどれか。

- a 尿流量測定
- b 腹部CT検査
- c 腹部血管造影
- d 陰囊穿刺吸引検査
- e PSA（前立腺特異抗原）測定



左精巣超音波検査

62 28歳の男性。1か月前より左眼の眼脂、充血を主訴に来院した。1週間から徐々に増悪している。視力低下は認めない。下眼瞼結膜の前眼部写真を示す。

最も考えられるのはどれか。

- a 細菌性結膜炎
- b 流行性角結膜炎
- c クラミジア結膜炎
- d ヘルペス性結膜炎
- e アレルギー性結膜炎



下眼瞼結膜の前眼部写真

63 62歳の男性。半年前から右手のふるえが出現し、3か月前から歩行と動作が遅くなったため受診した。脳神経は異常なし。深部腱反射は正常、病的反射は認めない。四肢、右側優位に筋固縮を認め、安静時に右手指振戦を認める。

可能性の高い疾患はどれか。2つ選べ。

- a 多発性硬化症
- b Huntington舞蹈病
- c Parkinson病
- d 多系統萎縮症
- e Alzheimer病

64 72歳の男性。20歳から30本/日の喫煙者である。4か月前から、咳嗽・喀痰が出現。この半年間で65kgあった体重が58kgまで減少した。最近になって口渇・悪心を訴え、尿量増加と嗜眠傾向も出現した。心電図上ではQTc時間の短縮を認める。

正しいのはどれか。

- a 低ナトリウム血症が見られる。
- b 低カルシウム血症が見られる。
- c クッシング症候群を合併しやすい。
- d neuron-specific enolase (NSE) が上昇している可能性が高い。
- e squamous cell carcinoma antigen (SCC) が上昇している可能性が高い。

65 56歳の女性。3週間前からの腹部膨満を主訴に来院した。腹部は膨隆し、圧痛は認めない。腹部超音波検査で腹水様所見があり、穿刺でゼリー状の液を吸引した。

この患者で正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 治療として手術を行う。
- b 組織学的悪性度が高い。
- c 腹部CT検査は有用ではない。
- d 消化管の通過障害はきたさない。
- e 虫垂や卵巣が原発臓器として考えられる。

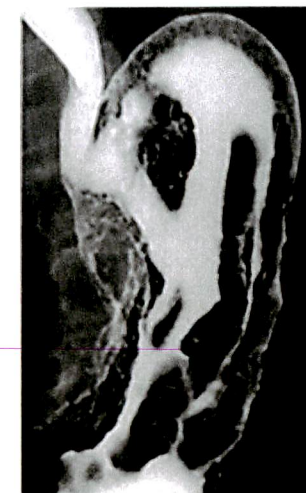
66 70歳の女性。吐血、食欲不振、体重減少を主訴に来院した。身体診察所見では、るいそう以外の異常所見を認めず。血液検査にて軽度の貧血をみとめるのみであった。血清生化学検査：TP 7.0 g/dl、Alb 4.0 g/dl、LDH 570 IU/l、UN 16 mg/dl、Cr 1.0 mg/dl、CEA 2.0 ng/dl、CA19-9 25 U/dl。上部消化管造影検査と内視鏡検査および生検組織所見を示す。

次のうち正しいのはどれか。

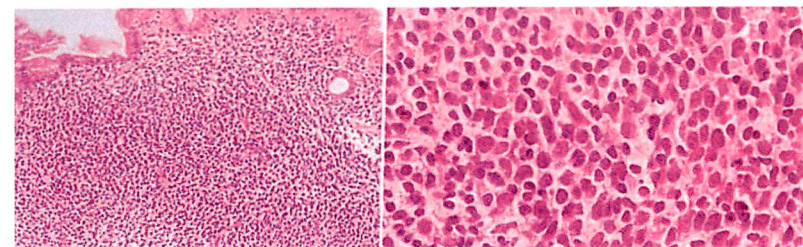
- a 胃悪性リンパ腫
- b メネトリエ病
- c 表層性胃炎
- d 肥厚性胃炎
- e 萎縮性胃炎



内視鏡検査



上部消化管造影検査

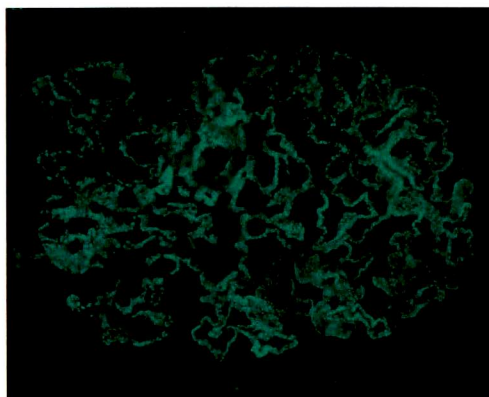


生検組織所見

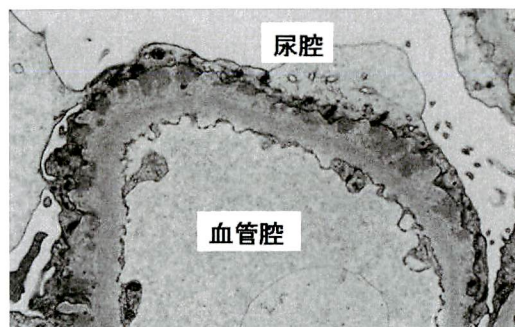
- 67 58歳の男性。浮腫を主訴に来院した。1年前の健診にて蛋白尿を指摘されていたが精査は受けていなかった。1か月程前より両下肢のむくみを自覚するようになり来院した。来院時、血圧 146/88 mmHg、脈拍 68/分、眼瞼浮腫あり、肺野清、心雑音なし、肝脾を触知せず、両下腿に浮腫あり。
- 尿所見：蛋白（3+）、蛋白定量 3.6 g/日、潜血（+）、血液生化学所見：総蛋白 5.4 g/dl、アルブミン 2.5 g/dl、総コレステロール 328 mg/dl、尿素窒素 25 mg/dl、クレアチニン 1.0 mg/dl。腎生検蛍光抗体染色（IgG）標本と電子顕微鏡標本を示す。

診断はどれか。

- a 膜性腎症
- b 巣状糸球体硬化症
- c 腎アミロイドーシス
- d 膜性増殖性糸球体腎炎
- e 微小変化型ネフローゼ症候群



腎生検蛍光抗体染色（IgG）標本



電子顕微鏡標本